

平成29年度 校内研修（究）計画書

1 学校の教育課題

(1) 教育目標

先人の開拓精神に学び、郷土の発展に寄与する人間の育成に努める
創造力があり、未知を切り開く子ども（かしこく）
情操豊かで、意志の強い子ども（やさしく）
体が健康で、たくましい子ども（たくましく）

(2) 目標達成上の課題

（かしこく）

- ① 基礎学力と当該学年の基礎的・基本的内容の確実な定着
- ② 校内研修（究）を中核とした思考力・判断力・表現力等の育成
- ③ 学習環境づくりと学習習慣の確立

（やさしく）

- ① 道徳の時間や全教育活動等を通しての、思いやりの心の育成
- ② 基本的生活習慣の定着
- ③ 児童の成長・変容を図る工夫

（たくましく）

- ① 健康を保持増進させる態度や習慣の育成
- ② 基礎的な体力・運動能力の向上
- ③ 危機回避能力の育成と、安全行動

2 本年度の研究計画

(1) 研究主題

英語に慣れ親しみ，コミュニケーションを楽しむ子どもの育成

～心をつなぐ外国語活動の授業づくり～

① 「英語に慣れ親しみ」

- ・英語の表現を聞く。
- ・英語で自分の考えや思いを表現する。
- ・身の回りにある英語の表現に興味を持つ。

② 「コミュニケーションを楽しむ」

- ・人の考えや思いを聞くことは、新しい発見があって楽しいと感じること。
- ・自分の考えや思いが人に伝わることは、自分にもできたという達成感があって楽しいと感じること。

- ・人と関わると、お互いの違いや良さに気付くので楽しいと感じること。

聞く

- ・相手の話をよく聞き、相手の考えや思いを分かろうとする。

【Eye contact, Smile, うなずき, 相づち, 表情】

伝える

- ・自分の考えや思いを伝えようとする。

【Clear voice, Eye contact, ジェスチャー, Smile】

関わる

- ・人との関わりを楽しむ。

【Smile, Eye contact, Clear voice, うなずき, 相づち, ジェスチャー】

③ 「心をつなぐ」

- ・自分の考えや思いを伝えると、相手がきちんと受け止めてくれる。
- ・友達や先生が自分の考えや思いを伝えようとしてくれる。
- ・コミュニケーションを通して、たくさんの人と触れ合うことができる。
- ・活動したみんなとお互いの良さを認め合う場が共有できる。

(2) 主題設定の理由

① 学習指導要領との関連

平成20年3月に小学校学習指導要領が改訂され、小学校第5学年及び第6学年に外国語活動が位置付けられた。外国語活動の目標は、次の三つの柱から成り立っている。①外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深める。②外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。③外国語を通じて、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。以上の三つの柱を踏まえた活動を統合的に体験することで、中・高等学校等における外国語科の学習につながるコミュニケーション能力の素地をつくらうとするものである。

そして平成32年度からは、小学校中学年から外国語教育を開始することにより、英語学習への動機付けをさらに高めるコミュニケーション能力の素地を養うことで、小学校卒業時までコミュニケーションへの積極性や言語や文化についての体験的理解を深めること等を目指している。

外国語教育については、子供たちが将来どのような職業に就くとしても求められる、外国語で多様な人々とのコミュニケーションを図ることができる基礎的な力を育成することが重要であるとされた。そこで本校では、コミュニケーションを重要視し、「英語に慣れ親しみ、コミュニケーションを楽しむ子どもの育成」を主題として研究に取り組むことで、学校目標の課題解決につながると考えた。

② 児童の実態、学校や地域の課題との関連

本校の児童は、明るく素直で何事にも前向きに一生懸命取り組む子どもが多い。昨年度まで「マナー日本一」を合言葉に、あいさつや廊下歩行にも力を入れ、学校内外での生活態度向上へも積極

的に取り組んできた。また、学力向上をめざし平成20年度から始まった「学びたいム」や「家庭学習ガイド」の取組の成果として、学力検査等の分析では、全学年・全教科においてほぼ全国平均を上回っている実態がある。

しかし、相手意識をもってコミュニケーションを図ったり、互いのことを尊重しながら話し合ったりすることへの意識が希薄化していることが課題として見えてきた。特に、自分の発する言葉が相手にどのように伝わるのかということを意識せずにコミュニケーションを図り、その結果、軽率な言葉を投げかけたり、相手と意思疎通ができずにトラブルになってしまったりすることがある。そこで、外国語活動を通して言語でのコミュニケーションを図ることの楽しさや人と関わることによる喜び、大切さに気付かせていきたいと考えた。

平成25年度に受賞した、「優れた『地域による学校支援活動』文部科学大臣賞」は、本校と地域社会との強い信頼関係が認められた結果であった。また、平成27年度には、学校・地域が一体となって台湾北成國民小學との交流を成功させ、言葉の壁を越えて友情を深めることができた。このように、協力的な地域・PTAの支援を受け、学校内外においても、奉仕活動やあいさつ声掛け運動、登下校の見守りなど、児童を支援する体制が常時整っている。家庭学習や学習支援ボランティアなどへの取組も理解し、教育に熱心な地域・保護者であるゆえ、子どもたちも落ち着いて学習に取り組む環境にある。

③ これまでの研究の成果と課題との関連

本校では、平成21年度の「放送教育研究大会」に向けた研究から数年間「対話する力」の育成に焦点を絞って取り組んできた。「話合いの視点」や「身に付けさせたい話合う力」を明確にしながら交流活動に取り組んできた結果、教師も児童も日常的に意識しながら授業実践できるようになった。また、平成23～24年度は、パナソニック教育財団の実践研究助成を受け、「論理的な思考力を育てるためのICT機器の活用のあり方」を研究してきた。パソコンや電子黒板、プロジェクター、実物投影機といった機器に加え、iPadやApple TVといった無線端末機器を活用し、効果を上げてきた。

平成25～26年度は、前年度までの反省を受け、パイロット教科を算数科に絞り、主に「しっかりと考えをもつ」ことを中心とした研究を行った。そして、平成27年度は、研究発表会を行い、思考力・表現力の育成に取り組むことができた。平成28年度は、国語科をパイロット教科とし、「読解力向上」に絞って具体的手立てを考えながら授業に生かすことができた。今年度は、外国語活動の研究指定を受けたことにより、外国語を通じて「コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を養う」ことに加え、昨年度の研究の課題の一つであった「言語力の向上」にも注目して研究を行っていきたい。

(3) 研究目標

コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を養うためには、学習活動の工夫が有効であることを、外国語活動の授業実践を通して明らかにする。
--

(4) 研究仮説

仮説 1

児童の興味・関心が高まるように教材や資料を活用すれば、児童は楽しく英語を聞いたり話したりすることができ、英語に慣れ親しむであろう。

仮説 2

ALT や友達などの様々な人たちと英語を通してお互いの考えや思いを伝え合うことができれば、児童は新しい発見をすることができ、コミュニケーション活動に意欲的になるであろう。

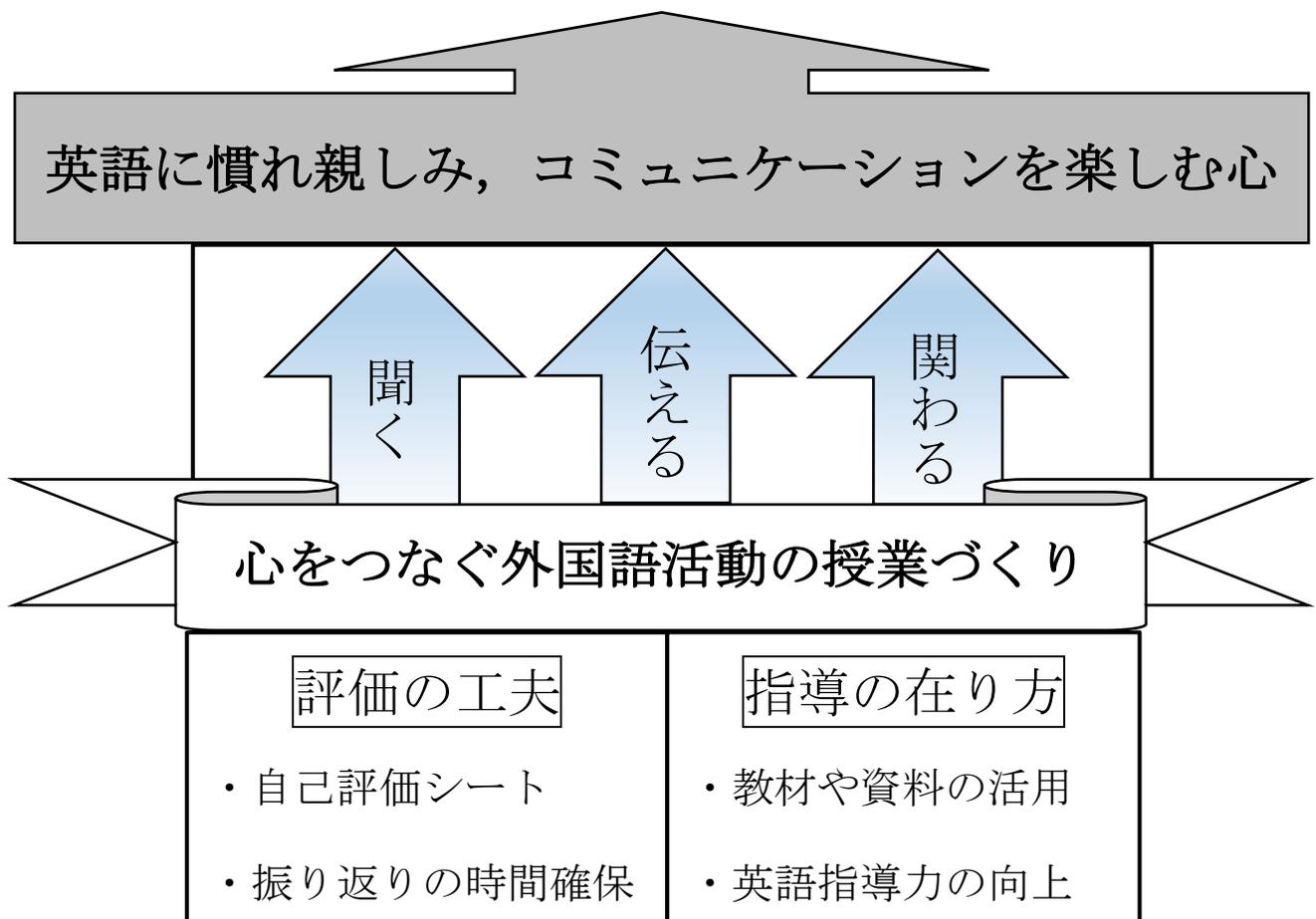
仮説 3

コミュニケーション活動を通して、発見したことやお互いの良さをみんなで認め合い共有できれば、児童は人と関わることの良さに気づき、コミュニケーション活動を楽しむようになるであろう。

(5) 仮説の検証に向けて

【検証方法】

- ① 検証授業において、仮説に関する手立てが適切だったかどうか検討する。
- ② 抽出児童の普段の様子と検証授業での様子の違いを観察し、仮説に関する手立てが適切だったかどうか検討する。



(6) 研究日程

	月 日	内 容	方法	教科 領域	要請指導主事等
1	4月12日 (水)	前年度の研究の概要説明と今年度の研究の方向性確認	全体協議		
2	4月21日 (金)	研究主題・目標・仮説・検証方法・研究日程について	全体協議		
3	5月10日 (水)	英語指導力向上のための指導について	全体協議	外国語活動	本校英語教育推進教師 教諭 木津 明子
4	5月19日 (金)	校内研修計画書の最終確認, 指導案の様式	全体協議		
5	5月24日 (水)	各ブロック指導案検討	各ブロック		
6	6月7日 (水)	模擬授業 (研修部)	全体協議	外国語活動	
7	7月7日 (金)	6学年研究授業 授業者 佐々木 千賀子	全体協議	外国語活動	十和田市教育委員会 指導主事 船水 純子
8	7月14日 (金)	5学年研究授業 授業者 成 田 美香子	全体協議	外国語活動	上北教育事務所 指導主事 金澤 希代子
夏季休業中		指導案検討・作成			
9	8月30日 (水)	指導案・要項最終確認 (完成)	全体協議		
10	9月27日 (水)	実践研究公開研究発表会打合せ	全体協議		
11	10月4日 (水)	公開授業準備	各ブロック		
12	10月11日 (水)	実践研究公開研究発表会準備	全体		
13	10月13日 (金)	小学校英語教育に係る実践研究公開研究発表会 5学年授業者 成 田 美香子 6学年授業者 佐々木 千賀子	全体協議	外国語活動	十和田市教育委員会 指導主事 船水 純子 上北教育事務所 指導主事 金澤 希代子
14	11月17日 (金)	今年度の研究の反省 (成果と課題)	全体協議		
15	11月22日 (水)	研究紀要作成について	全体協議		
16	12月6日 (水)	今年度の研究内容の考察	全体協議		

17	2月14日 (水)	今年度の研究のまとめと次年度の 研究の方向付け①			
18	3月7日 (水)	次年度の研究の方向付け②			

3 研修計画

(1) 研修の重点

- ① 教育活動をより良いものにできるような専門的な知識や技能を身に付ける。
- ② 先進的な研究に取り組んでいる学校の情報を，全教職員で共有する。

(2) 研修日程

	月日	内 容	方法	教科 領域	要請指導主事等
1	4月12日 (水)	一般研修① ICT研修	全体 講義	視聴覚	校内講師 教諭 高橋 誠
2	8月18日 (金)	一般研修② 小学校英語教育について	全体 講義	外国語 活動	天間西小学校 校長 川村 拓己
3	1月17日 (水)	一般研修③ 体育実技研修	講義 実技	体育	おいらせ町立木内々小学校 校長 平出 剛
4	3月7日 (水)	各種研修会等報告会	報告	各教科	報告者：3月までの県外研 修の派遣者

本主題での研究 1年目		研究教科等	外国語活動
研修主任	宮本 小百合	研究指定の 有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 小中学生英語力向上推進事業 小学校英語教育に係る実践研究校公開研究発表会 指定期間 平成29年度～平成30年度